

三股町文化財報告書 第5集

ミ マタ チョウ ナイ イ セキ
三 股 町 内 遺 跡 Ⅲ

2003年

宮崎県三股町教育委員会

三股町文化財報告書 第5集

三股町内遺跡Ⅲ

2003年

宮崎県三股町教育委員会

序

三股町教育委員会では、近年の開発事業等の増加により、埋蔵文化財の保護と諸開発との調整が大きな課題となっており、平成6・7年度に実施された町内遺跡詳細分布調査の結果をもとに、開発に伴う遺跡について事前の試掘・確認調査を実施しているところであります。本書は平成14年度に実施された試掘・確認調査の報告書であります。この調査が、開発と埋蔵文化財の保存とが共存しうるきっかけとなり、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財への理解を深める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査に御協力頂いた関係諸機関並びに地権者の方々に深く感謝申し上げます。

平成15年3月

三股町教育委員会

教育長 中西 泰 昌

例 言

1. 本書は、三股町教育委員会が国・県の補助を受けて、平成14年度に実施した町内遺跡発掘調査の報告書である。

2. 遺跡の名称は小字名による。

3. 調査体制は以下の通りである。

調査主体 三股町教育委員会

教 育 長 中 西 泰 昌

生涯学習課長 木佐貫 辰 生

同 課長補佐 内 村 陽一郎

兼 係長

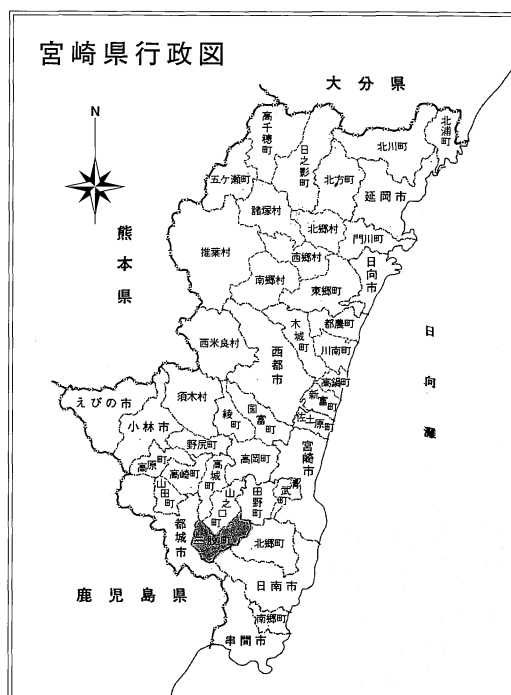
主 任 楠 見 千穂子（庶務担当）

主任主事 黒 木 欣 綱（調査・執筆・編集担当）

4. 本書に使用した写真は、黒木が担当した。

5. 報告書中の方位は磁北である。

6. 出土遺物・その他諸記録は三股町教育委員会で保管している。



本文目次

1. 外戸口遺跡群・中原遺跡群の確認調査	1
2. 坂ノ下遺跡の確認調査	5

挿図目次

第1図 基本土層柱状図	1
第2図 周辺遺跡位置図(外戸口・中原遺跡群)	2
第3図 周辺遺跡位置図(坂ノ下遺跡)	5
第4図 梶山城縄張図	6

図版目次

図版1 宮ノ原地区基本土層	1
図版2 宮ノ原地区(垂直)	2
図版3 宮ノ原地区調査状況-1	3
図版4 宮ノ原地区調査状況-2	4
図版5 坂ノ下遺跡調査状況	7

1. 外戸口遺跡群・中原遺跡群の確認調査

[遺跡の位置と環境]

当地は三股町の西部に位置し、北部は萩原川、南部は年見川に囲まれた平地で、現況は広域な畑地帯となっている。『三股町遺跡詳細分布調査報告書』（平成8年度発行）によれば外戸口遺跡群は弥生、古墳、平安時代の包蔵地となっており、南部に隣接する中原遺跡群は縄文、古墳、平安時代の包蔵地となっている。但し、外戸口遺跡群についても平成12・13年度の確認調査により縄文時代の遺物も出土している。表採が多く遺構に伴うものではないので、今後の調査に期待したい。

[調査に至る経緯]

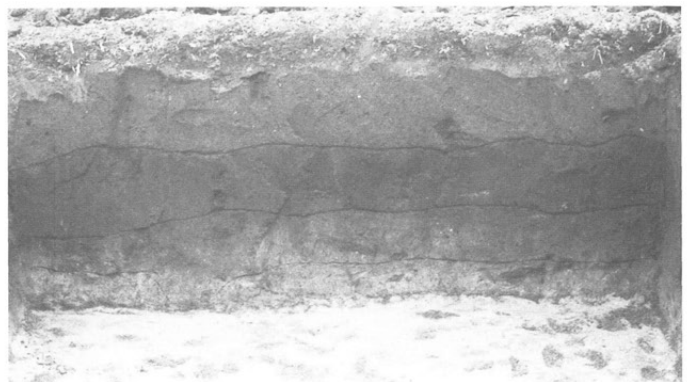
今回の調査は、平成12年度から継続して実施しているものであり、宮ノ原地区における県営畑地帯総合整備事業に起因している。計画区域が127haという広範囲に及ぶ事業であり、計画的な調査が必要であり、三股町役場耕地課の協力のもと土地所有者との調整を行いつつ、試掘・確認調査を実施している。調査の結果をもとに、畑地帯では集水路の設置工事が行われており、協議材料として今後とも調査の継続が必要となるであろう。

[調査の内容]

調査はトレンチ法（2m×3m）で実施した。事業計画内の町道脇の畑地をその調査対象地とし、主に休耕地を選び、土地所有者との調整を行いつつ調査を実施した。10月20日より調査に着手し、平成12年度では23箇所の試掘・確認調査を実施し、13年度は16箇所の試掘・確認調査を実施し、本年度は20箇所実施した。層位は第2図のとおりだが、黒色土層、暗褐色土層が包含層であることが確認されており、開発時には慎重に対処していただいている。遺物は概ね小片が多く、時期の確認はできないが、平成12・13年度同様縄文・弥生・古墳時代のものと思われ、周知の遺跡としている当遺跡（S7・S8）はその範囲を拡大訂正する必要がある。

表	土
黒	色 土
暗	褐 色 土
黒	褐 色 土
御	池 軽 石 層

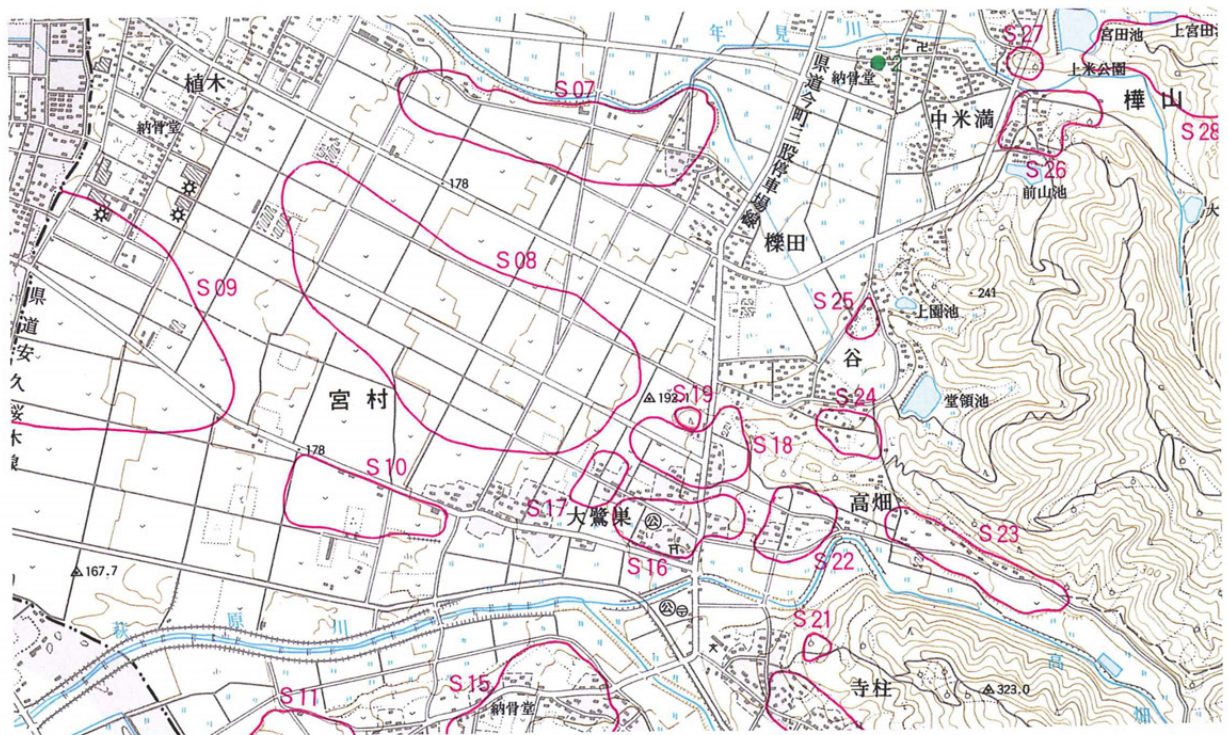
第1図 基本土層柱状図



図版1 土層断面



図版2 宮ノ原地区（垂直）



- | | | | | | |
|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|
| S07：外戸口遺跡群 | S08：中原遺跡群 | S09：下鷹遺跡群 | S10：上鷹遺跡群 | S11：下水流遺跡 | |
| S15：平原遺跡 | S16：畑田遺跡 | S17：西原遺跡 | S18：岡下遺跡 | S19：岡之元遺跡 | S21：前畑遺跡 |
| S22：尾崎遺跡 | S23：高畑遺跡 | S24：和田遺跡 | S25：中村遺跡 | S26：山内遺跡 | S27：山下遺跡 |

第2図 周辺遺跡位置図（1：25,000）



トレンチ 40



トレンチ 41



トレンチ 42



トレンチ 43

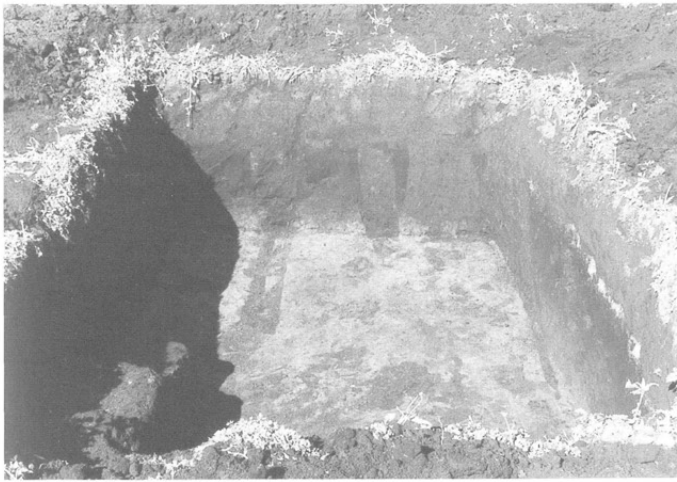


トレンチ 44

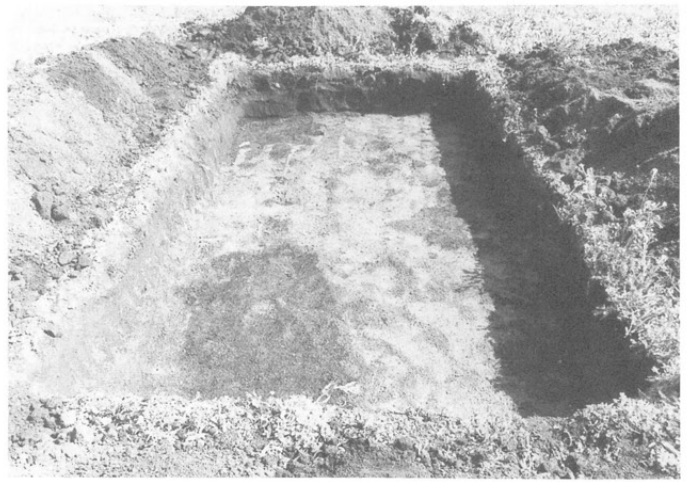


トレンチ 45

図版3 宮ノ原地区調査状況—1



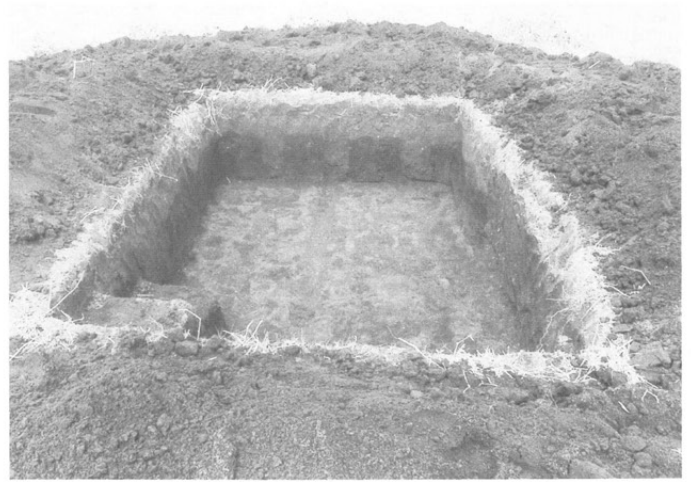
トレンチ 46



トレンチ 47



トレンチ 48



トレンチ 49



遠景 (南より)



遠景 (南西より)

図版4 宮ノ原地区調査状況—2

2. 坂ノ下遺跡の確認調査

[遺跡の位置と環境]

当地は、三股町の南部、大字長田字坂ノ下で山之口町境に位置する。『三股町遺跡詳細分布調査報告書』（平成8年度発行）によれば、縄文時代の包蔵地とされている。その西部には町道を挟み中世山城の梶山城が隣接している。調査地は、梶山城取添の東に位置しているが、既に地形は変化しており梶山城との関連は考察し得ない状況にあった。『三股町史 改訂版』によれば、昭和59年3月当地の畑地整理工事中に集石遺構が発見され、県文化課の指導のもと発掘調査が行われた、とある。時期は、縄文早期から初期とあるが、報告書は未見であり遺構・遺物の考察材料がなく、今回の確認調査の成果が期待された。

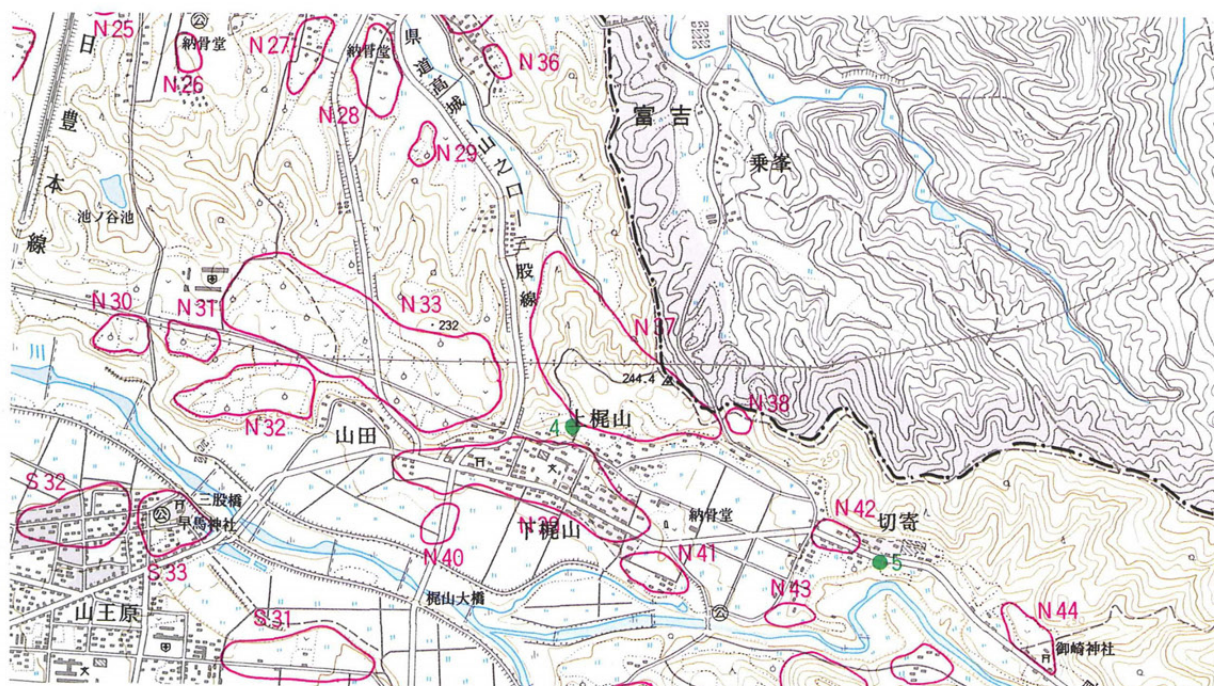
[調査に至る経緯]

今回の調査は、平成13年3月に町部局に提出された開発行為の事前協議調書において、内容が当地のシラス・ボラの採取であることに起因している。対象面積は6,400㎡で、現況は一部山林で荒地であった。埋蔵文化財の確認の必要性を説明し、土地所有者、事業者の協力を得、確認調査を行った。調査では、約2m×3mのトレンチを4箇所設定し、遺構・遺物の検出に努めた。

[調査の内容]

今回の調査は前年度末に行われたため、報告書掲載は14年度となった。

調査の結果、4箇所のトレンチのいずれからも遺構・遺物は検出されなかった。一部、二次アカホヤ、アカホヤ層を掘削したが、攪乱も多く既に造成が行われた形跡が見られた。



N26：迫間遺跡	N28：向原遺跡	N29：千才丸遺跡	N30：高才遺跡	N31：丸岡遺跡
N32：宮ノ尾遺跡	N33：霧島待遺跡群	N37：城内遺跡	N38：坂ノ下遺跡	N39：中原遺跡
N40：上山田遺跡	N41：天神原遺跡	N42：辻原第一遺跡	N43：辻原第二遺跡	N44：牧遺跡

第3図 周辺遺跡位置図 (1:25,000)



第4図 梶山城縄張図（八巻孝夫原図作成）



トレンチ 1



トレンチ 2



トレンチ 3



トレンチ 4



調査対象地 (東から撮影)



作業風景

図版 5 坂ノ下遺跡調査状況

報 告 書 抄 録

フリガナ	ミマタチョウナイイセキ
書名	三股町内遺跡Ⅲ
シリーズ名	三股町文化財調査報告書
シリーズ番号	第5集
編集者名	黒木欣綱
発行機関	宮崎県三股町教育委員会
所在地	宮崎県北諸県郡三股町五本松1-1
発行年月日	2003年3月31日

所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
外戸口遺跡群	三股町大字樺山字 外戸口、出水、八谷、 向原			2002. 10. 20 ～ 2003. 3. 31	40m ²	県営畑地帯 総合整備事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
散布地	弥生・古墳時代	柱穴・土坑		土器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
中原遺跡群	三股町大字宮村字 中原、北原、西原			2002. 10. 20 ～ 2003. 3. 31	50m ²	県営畑地帯 総合整備事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
散布地	縄文・古墳時代	柱穴・土坑		土器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
坂ノ下遺跡	三股町大字長田 字坂ノ下			2002. 3. 19 ～ 2002. 3. 20	30m ²	土砂採取
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
包蔵地	縄文時代	なし		なし		

三股町文化財調査報告書 第5集

三股町内遺跡Ⅲ

2003年3月

発行 宮崎県三股町教育委員会

〒889-1995

宮崎県北諸県郡三股町五本松1-1

TEL 0986-52-1111

印刷 株式会社 文昌堂

〒885-0052

宮崎県都城市東町18街区1号

TEL 0986-22-1121